

■10月7日

アジアナ航空、仁川—福島チャーター便、12月も中止、原発汚染水問題で集客できず

アジアナ航空は4日までに、12月に2本(4往復)予定していたソウル—福島間のチャーター便の運航中止を決めた。汚染水問題で韓国側の集客が見込めないと判断したため。これで、10月以降、年内に予定していたチャーター便計7本(14往復)全てが中止になる見込みだ。福島民報が報じた。

運航する予定だったチャータビンは、10、11の両月の計4本に続き、12月も中止となった事を受け、県空港交流課は「汚染水問題が改善しない限り、チャーター便運航は難しい」とみているとコメントした。

なお、福島—仁川間の定期路線は東日本大震災と東電福島第一原発事故以降、運休している。原発事故の風評などが続く中、県とアジアナ航空はチャーター便の定期化で本県への正しい理解を促すとともに、需要を喚起することで定期路線再開を目指していた。

(福島民報)10/5

<http://www.minpo.jp/news/detail/2013100511322> (-> <http://www.minpo.jp/news/detail/2013100511322>)

FDA、8号機は静岡空港拠点

フジドリームエアラインは、来年3月に導入する新造機(8号機)は静岡空港を拠点とすることが分かった。同社の鈴木与平社長は「今まで以上に県民、静岡空港の発展をお手伝いしたい」としている。毎日新聞が報じた。

同社は、来年3月からエンブラエルを新たに1機導入し、8機態勢とする。現在の7機のうち6機は愛知県営名古屋空港を拠点としており、静岡空港に駐機している1機に加え2機体制で運航を行う。

今後は、静岡空港からの札幌、福岡、鹿児島 の3路線に加え、福岡線の増便や、かつて路線があった小松(石川県)や熊本便の復活、山形への新規就航などを検討するという。

(毎日新聞)10/6

<http://mainichi.jp/area/shizuoka/news/20131006ddlk22020106000c.html> (-> <http://mainichi.jp/area/shizuoka/news/20131006ddlk22020106000c.html>)

セブ・パシフィック航空(LCC)、関空—マニラ線増便、デイリー運航へ

セブ・パシフィック航空は4日、12月19日から、関空—マニラ線を増便し、デイリーで運航すると発表した。関空—マニラ線は現在週3便で運航しており、4便増便する。使用機材は、エアバスA320型機の180席。

なお、この増便により、同区間の座席供給量は1週間あたり33%増となる見通しだ。

日本とフィリピンの航空当局が、先月半ばに行われた協議で羽田空港への乗り入れ枠の新設など3点で合意したことを受けて、同社は、日本路線の拡大に意欲を示している。具体的な乗り入れ先として、羽田や成田、福岡、沖縄、名古屋など9都市を挙げている。

(トラベルビジョン)10/6

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59099> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59099>)

(NNAASIA)10/7

<http://news.nna.jp/free/news/20131007php005A.html>

(セブパシフィック プレスリリース)10/4

<http://www.cebupacificair.com/pages/PressReleases.aspx> (-> <http://www.cebupacificair.com/pages/PressReleases.aspx>)

マレーシア航空、成田—コタキナバル線、週3便で運航再開

マレーシア航空は、成田—コタキナバル線を10月28日から週3便(月・木・土)で運航を再開する。

運航に先立ち10月3日にイベント「コタキ・ナイト」を開催した。イベントで登壇した、マレーシア航空、北アジア&北米地区代表統括副社長のロスラン・イスマイル氏によると、マレーシア航空は今年2月にワンワールド・アライアンスに加盟したことで「パートナーである日本航空の国内便を利用し、成田経由で日本国内からマレーシアへ便利にアクセスできるようになった」という。マレーシア航空によると、全国31都市から成田発着と同料金でマレーシアを訪問することが可能。地方発の利便性が高まったことで、地方発需要の取り込みも期待できるとの考えを示した。

(トラベルビジョン)10/6

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59103> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59103>)

ICAO総会、温暖化ガス削減策導入を決定、主要産業界初

国際民間航空機関(ICAO)は4日モントリオールで開いた総会で、航空機から出る温暖化ガスの削減策を2020年までに導入することを決議した。排出量取引など市場メカニズムに基づく仕組みを設計する。ICAOは、温暖化をめぐるこうした対策への国際的な合意は主要産業界では初めてとしている。

具体的な内容は今後ICAO加盟各国間の交渉を経て作成し、次回16年の総会で決定する。AP通信によると世界全体の二酸化炭素排出量の中で航空産業が占める割合は2%未満だが、発展途上国を中心に拡大を続けている分野のため、対応を急ぐ。

(日経)10/5

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM0500V_V01C13A0000000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM0500V_V01C13A0000000/)

AIR DO、9月旅客輸送実績、平均搭乗率80.9%、新路線も好調

AIR DOはこのほど、9月の旅客輸送実績(速報値)を発表した。これによると、全路線合計の搭乗者数は25万5,245人で、座席供給13.5%の増加に対し、旅客数は10.6%増加となった。全路線平均搭乗率は80.9%と、前年同月と比べて2.2ポイント低下した。

また、今年就航した新路線は、羽田—釧路線の利用率が79.2%、札幌—岡山線は90.4%(エア・ドゥ販売分73%)、札幌—神戸線の搭乗率は88.8%(同84.5%)といずれも好調に推移している。

(日刊航空)10/7

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

エアブサン(LCC)、2013年KCSI-LCC部門1位獲得

エアブサンは、2013年KCSI(韓国産業顧客満足度調査)において、LCC部門で1位を獲得したと発表した。6月にKS-SQI(韓国サービス品質評価)LCC部門において“サービス品質優秀企業”と“安全優秀な航空会社”を受賞したのに引き続きの受賞となった。

同社は(->)、温かい機内食を無料で提供し、ドリンクや新聞などの機内サービスも全て無料。座席の間隔は他のLCCよりも2.5~5cm広く、FSA同様のサービスを提供している。

(日刊航空)10/7

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

